

災害時の住民用パンフレット（アクアリーナ ロッソタワー）

2025年12月版

近年、地震や集中豪雨などによる災害が多くなっています。
私たちが所属する戸手多摩川町内会では議論を重ね、災害に備えたパンフレットを作成しました。
これを受けて、アクアリーナ ロッソタワー理事会は、これだけは知っておいて欲しい内容を追加、
わかりにくい表現を修正して、ロッソタワーの皆さま向けのパンフレットを作成しました。
パンフレットをご確認いただき、災害への意識を高めていただけますと幸いです。

- 目次
- 1. 災害時に関して、これだけは知っておいてください
- 2. 戸手多摩川町内会 在宅避難向けパンフレット（抜粋）
 - 2-1. 基本方針
 - 2-2. 災害が起きる前の準備
 - 2-3. 災害発生後
 - 2-4. その他（参考情報）

1. 災害時に関して、これだけは知っておいてください

- ・アクアリーナは、**在宅避難**です。
御幸中などの避難所は利用できません。
- ・町内会、マンションの理事会、マンションの管理会社には、**食糧・防災用品・トイレなどの備蓄はありません**。停電時は水道も使えなくなります。
市や区からの配給も期待できません。普段から**各戸で必要な備蓄をしてください**。
- ・**トイレ・台所・風呂・洗面所・洗濯機など、一切の排水は禁止です**。
下水管などが破損している場合、マンションから排水できず、低層階に汚水が溢れてしまいます。
水道が使えるようになって、下水管など破損の確認が必要となります。
理事会から連絡があるまで絶対に排水しないでください。
- ・オートロックが正常に機能せず、防犯の問題が起きやすくなります。
不審な人物を見かけたら、すぐに理事会に連絡をください。
また、平常時から同じフロアの方と面識を持ち、不審な人物を判断できるようにしておいてください。
- ・理事会が町内会等と連絡をとり、必要な対応を指示します。
臨時の役割を住人の方をお願いする場合があります。
住人同士で協力して、復旧につなげていきましょう。

2. 戸手多摩川町内会 在宅避難向けパンフレット（抜粋）

町内会のパンフレットからロッソタワーに関係する部分を抜粋しました。
オリジナルは、戸手多摩川町内会自主防災組織のサイトをご覧ください。

<https://todetamagawa.com/secret/jishubousai.html>

★は本マニュアル独自の記載です。

2-1. 基本方針

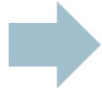
- A-1 各マンションの防災対策本部(理事会) は情報収集のうえ、
町内会自主防災本部（戸手多摩川町内会）へ報告を行う。
各戸は災害に対応すべく事前に準備を行う。
(災害対策本部は情報を受取りマンションの代表として災害本部（行政）へ情報を上げる。)
- A-2 各戸では必要な防災用品、食料、水、簡易トイレ等を日頃から準備しておく。
(約10日分を目安とする 防災対策本部、マンション、町内会での配布は行わない)
- A-3 アクアリーナ3棟は在宅避難。（強固な建物のため）
原則＊避難所を利用しない。（＊御幸中学校）
- A-4 各戸では日頃から家具の転倒など怪我をしない準備・点検を行う。

2-2. 災害が起きる前の準備

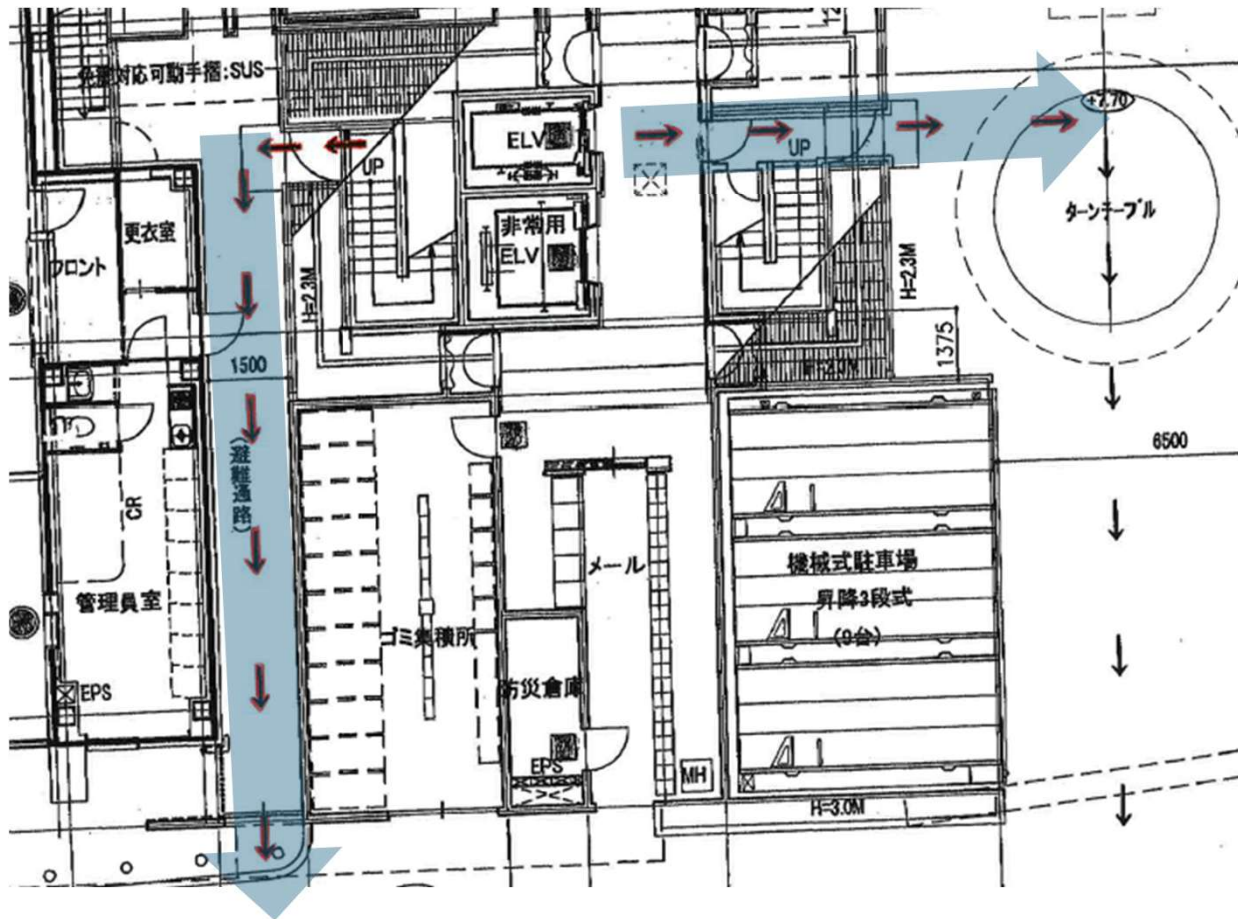
- B-1 1 F 非常階段出入口の使用法確認を行う。（避難訓練などで確認すること）
 ⇒次のページ参照
- B-2 家族との連絡方法等を決めておく。（SNS等を利用）
- B-3 死傷者を出さないように準備をしておく。
 照明、家具転倒防止、食器棚のガラス扉に飛散防止フィルムを貼る等。
- B-4 10日以上在宅避難の想定をしておく食料のローリングストックを用いて
 誰でも食事を作れるようにしておく。
 10日分×人数分の食料とカセットコンロとガスを用意する。
 （カセットガス1本当たり 強火65分 中火120分 湯煎1回40分くらい）
- B-5 ラジオ、モバイルバッテリー、乾電池の用意。
- B-6 マンションの消火器の場所確認。（取り扱い方法） ⇒次のページ参照

非常階段経路

避難する場合は



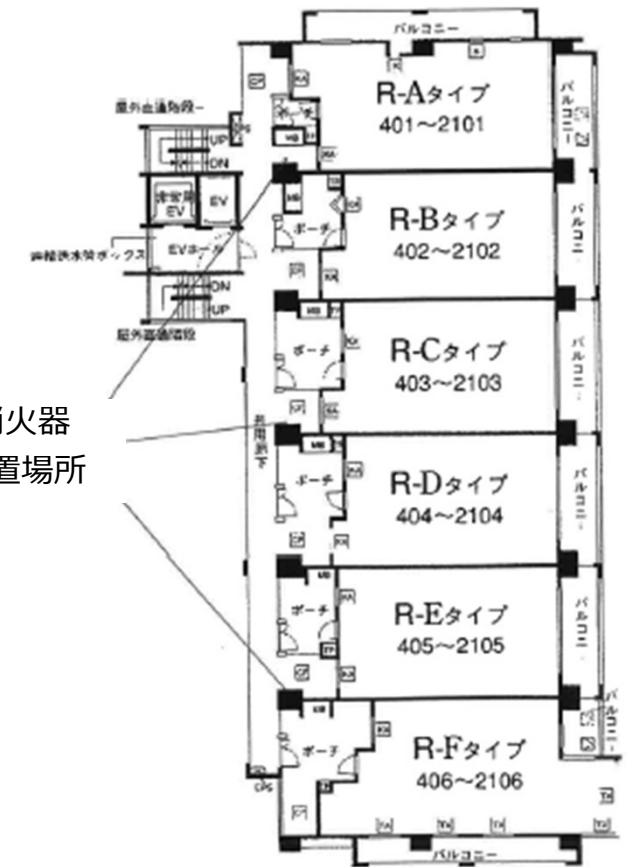
の経路で外へ出てください。



消火器設置場所

設置場所は各階共通です。

消火器
設置場所



2-3. 災害発生後（連絡が無くても、震度6弱以上の場合に適用）

- C-1 室内で出火した場合の初期消火を行う。
スプレー式消火器を用意しておく。（要検討）
- C-2 二次災害に気を付ける。
転送・落下・飛ばされた電化製品の電源を切る。
避難する場合はブレーカーを落とす。（ブレーカーを入れた時の通電火災に気を付ける）
- C-3 閉じ込められた場合の救助要請コールについて
地震直後は対策本部の対応が追いつかない想定をしておく。
フロア単位の安否確認の声掛けを行う。
（たとえば震度6弱以上で「無事ですカード」を出す）
救助が必要なことに気が付いた人は近隣の人と一緒に救助。
ブレーカーを入れた時の通電火災に気を付ける。
鍵のかかっていない窓の確認。
- C-4 重傷者が発生した場合の対応消防などへ連絡をする。
電話が通じない場合は直接消防署へ行き、受入先が決まるまで怪我人を動かさない。
- C-5 自宅のトイレ対策（断水の場合）自宅のトイレは使用しない。
非常用（携帯）トイレを使用すること。
（非常用トイレ（防臭袋）、日頃から必ず用意しておく約10日分目安）
配管の破損による漏れ、詰まりにより逆流による被害が大きく、
災害時には修理に時間を要する。

- C-6 一般排水（風呂、洗面所、台所）も配管の破損、詰まりにより逆流防止のため使用しない。
風呂、洗面所、洗濯機の排水はトイレの配管につながっているため、
配管が破損している場合もあり一切の使用を禁止とする。
アクアリーナの台所排水はディスポーザーの処理槽に溜まります。
処理層の汚水はポンプで排水しますが、停電時はポンプが停止するため、
台所から排水すると処理層から汚水が溢れます。
- C-7 自宅での飲料水の確保。
ボイラー水エコキュートに約300Lの貯水されているが、飲料水としては不可。
浄水機または沸騰水道水をポリタンクにローリングストック。（3～6日毎に交換）
各戸では市販の飲料水をストックするよう努める。
風呂の水を飲料水にできる浄水器の利用などを各戸で検討。
- C-8 ゴミはゴミ置き場ではなく自宅保管とする。
（ゴミの回収ができないため当面施錠する）
- C-9 不審者対策 見かけない人がいた場合は複数人で声掛けをする。
- C-10 カセットコンロを使用する場合は、通電した際に火災報知器が作動しないように気をつける。
- C-11 自宅の対応ができたなら、（できる方は）1Fロビーへ行き、理事会役員に状況を伝える。
また、理事会からの指示があればそれに従う（★）
- C-12 （できる方は）理事会役員に協力して対応活動を行っていただけると助かります。（★）

2-4. その他（参考情報）

- D-1 首都圏直下地震の停電時の復旧想定は、1週間で5割、1カ月でほぼ復旧（東電見解）
- D-2 大都市圏では携帯電話の中継局バッテリーは24時間
- D-3 飲料水は1名あたり1日3L必要になります
- D-4 以前は、災害発生時にオーバル広場のベンチを釜土にして炊き出しを行う想定でした。しかし現在は、ベンチが壊れる恐れがあるため釜土にしないこととなっています。（★）